

# 針刺し事故対応マニュアル

(本マニュアルはみさと健和病院、都立駒込病院等のマニュアルを改変したものであり、無断での転載はご遠慮ください。)

# 針刺し事故対応マニュアル

## 1、まず針刺し事故が発生したら！！

- 、原因器材に血液等の汚染がない場合  
傷の処置をし、上司に報告
- 、原因器材に血液等の汚染がある場合  
直ちに傷口より血液をしぼりだし、流水で洗い流す  
上司に報告する（夜間は管理当直）  
針刺し事故報告書に記入  
外来受診し、血液検査にて HBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体を確認（夜間は当直医）

## 2、患者さんの血液検査を行なう

患者さんの感染症に関する情報を入手する（HBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体を確認）1年以内の検査結果は有効とする  
どれか1つでも不明のものがあれば採血（ただし、HIV 抗体に関しては主治医の判断とする）

患者さんに承諾書にサインをしていただく（別紙2）〔主治医または師長〕  
患者さんがサインできない場合は家族にサインしてもらう  
（患者さんの家族に電話での承諾も可とする）

患者さんがサインを拒否した場合 別紙9

患者さんがサインできず、家族と連絡不能の場合 別紙9

## ここまです針刺し事故発生後30分以内を目標に行なう

\* HIV 陽性血液の針刺し事故の場合、2時間以内の予防薬内服が必要です

### 患者さんの血液検査の結果

いずれの検査も陰性のとき・・・針刺し事故マニュアル陰性編（3頁）  
HBs 抗原（+）のとき・・・針刺し事故マニュアルHBV編（4頁）  
HCV 抗体（+）のとき・・・針刺し事故マニュアルHCV編（5頁）  
HIV 抗体（+）のとき・・・針刺し事故マニュアルHIV編（6頁）

### 3、針刺しの患者さんが特定できない場合

別紙 10

#### 針刺し事故対応マニュアル 陰性編

患者さんの血液が HBs 抗原、HIV 抗体とも陰性の時

被事故者（職員）の採血を行い、HBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、 $\gamma$ -GTP、T-bil を検査する

2 ヶ月後に同じ採血を行う

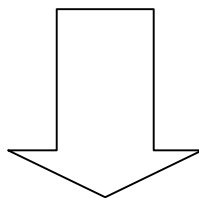
HBV や HIV の潜伏期を考えて、確認のための検査です

## 針刺し事故対応マニュアル HBV 編

患者さんが HBs 抗原陽性の時

### 48 時間以内に被事故者（職員）の HBs 抗原、HBs 抗体を測定する

- # 1、被事故者が HBs 抗原陽性もしくは HBs 抗体陽性（16 倍以上）のとき  
新たな B 型肝炎の感染の可能性はありません
  
- # 2、被事故者が HBs 抗原陰性かつ HBs 抗体陰性のとき  
B 型肝炎感染の可能性が**あります**



平日の日中は薬局に問い合わせで抗 HB グロブリンを発注  
日曜祭日休診日夜間等は管理当直に連絡  
抗 HB グロブリンは 48 時間以内に筋注する 施行前に  
『輸血・血漿分画製剤に関する説明 同意書』に被事故者の署名をして  
もらう  
事故後 2 週、1 ヶ月、3 ヶ月、5 ヶ月、6 ヶ月、7 ヶ月後被事故者の  
採血を行う 内容は HBs 抗原、HBs 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、  
-GTP、T-bil  
これら全て労災扱いとし、労災カルテに記載する

## 針刺し事故対応マニュアル HCV 編

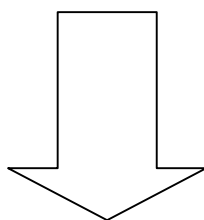
### 患者さんが HCV 抗体陽性の時

#### # 1、被事故者が HCV 抗体陽性のとき

新たな C 型肝炎の感染の可能性はありません

#### # 2、被事故者が HCV 抗体陰性のときあるいは不明のとき

C 型肝炎感染の可能性がります



今のところ C 型肝炎の予防対策はありません

被事故者の採血を行う

内容は HBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体、  
GOT、GPT、LDH、ALP、 $\gamma$ -GTP、T-bil

事故後 1 ヶ月、2 ヶ月、3 ヶ月、6 ヶ月に被事故者の採血を行う

内容は HCV 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、 $\gamma$ -GTP、T-bil

これら全て労災扱いとし、労災カルテに記載する

## 針刺し事故対応マニュアル HIV 編

### 患者さんが HIV 抗体陽性の時

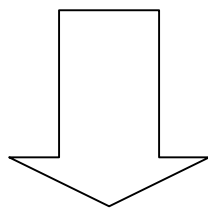
まず被事故者の採血を行う

#### # 1、HIV 抗体陽性のとき

すでに HIV に感染しています 定期的なフォローを

#### # 2、HIV 抗体陰性のとき

HIV 感染の可能性があります



責任医師に連絡 被事故者への説明《別紙 3 8 頁》を行う  
針刺し事故フローチャート（別紙 5）に従う  
抗 HIV 薬の予防的服用開始に関する同意書（別紙 6）もしくは抗 HIV 薬予防的服用拒否に関する承諾書（別紙 7）にサインをしてもらい、開始の場合はできるだけ早く服用する《事故から 2 時間以内》  
患者さんへのインフォームを責任医師が行う（別紙 4 9 頁）  
労災カルテに全てを記入し、同意書のコピーを添付  
被事故者の採血を 1、2、3、6 ヶ月後に行う  
内容は HIV 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、-GTP、T-bil

# 針刺し事故報告書

患者氏名 \_\_\_\_\_ 男・女 年齢 \_\_\_\_\_ 歳

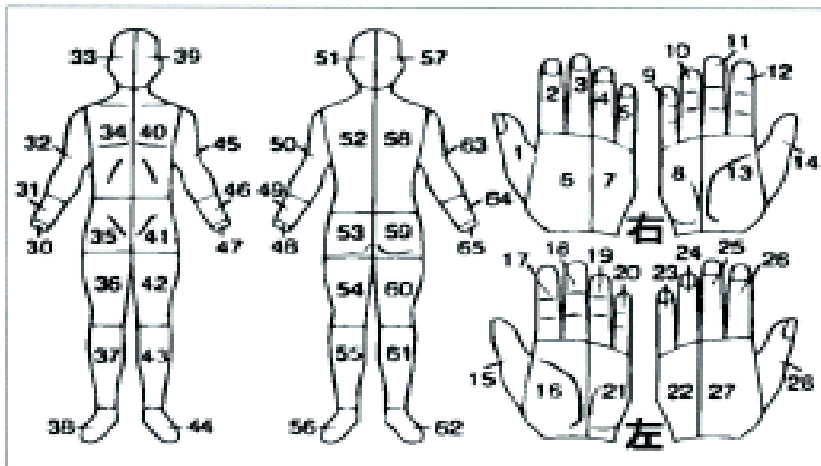
・発生時間： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

・発生場所： \_\_\_\_\_

・事故発生の状況： 採血時 注射・点滴のとき その他 \_\_\_\_\_

詳細： \_\_\_\_\_

・傷の場所（下図に書き入れてください）



・傷の深さ： 出血なし 表在性（少量の出血） 中程度（皮膚の針刺し・切創、中程度の出血） 重傷（深い針刺し・切創、著しい出血）

・原因機材： 翼状針 注射針 静脈留置針 その他（ \_\_\_\_\_ ）

## 患者さんの感染症

HBs 抗原 ( ) HBs 抗体 ( ) HCV 抗体 ( ) HIV 抗体 ( )

## 被事故者の感染症

HBs 抗原 ( ) HBs 抗体 ( ) HCV 抗体 ( ) HIV 抗体 ( )

被事故者氏名 \_\_\_\_\_ 所属 \_\_\_\_\_

## 採血および感染症検査に関する同意書

患者氏名 \_\_\_\_\_ 様

この度、患者様の血液の付着した\_\_\_\_が、誤って職員に刺さってしまう事故が発生いたしました。普段からこのような事故がおきないように十分に気を付けて参りましたが、誠に残念なことに事故がおきてしまいました。

つきましては、職員へのウイルス感染予防のため、患者様の血液検査（ウイルス検査）を行わせていただきたいと存じます。

検査の費用は当方で負担させていただきますので、何卒ご協力をお願いいたします。検査結果は後日ご報告させていただきます。

< 検査項目 >

HBs 抗原・・・B 型肝炎ウイルスの検査

HCV 抗体・・・C 型肝炎ウイルスの検査

HIV 抗体・・・後天性免疫不全症ウイルスの検査

以上を予定しております。

年 月 日

担当者氏名 \_\_\_\_\_

上記の説明を受け、採血・検査を受けることに同意します

年 月 日

患者氏名 \_\_\_\_\_

患者家族氏名（代筆の場合） \_\_\_\_\_

## 針刺し事故にて患者血液で HIV ( + ) が判明した時

### ・ ・ ・ 被事故者 ( 職員 ) への説明

\* 本人同意の上で師長、主任など上司に同席してもらい必ず個室で行う

**この用紙は説明用マニュアルで、本人に渡すものではありません**

驚きだと思うが、落ち着いて聞いて欲しい

簡易テストで患者の血液が HIV 陽性であった

簡易テストの感度は 100%、特異度は 99% ( 偽陰性 1% ) とされている

HIV 感染血液による医療事故での HIV 感染の可能性は 0.3% といわれている

患者の HIV について精密検査は行うがその結果が出る前に、感染の危険を下

げるため、これから 2 時間以内に感染予防の薬を 3 種類服用する必要がある

感染予防薬を飲むことで感染の危険はさらに 5 分の 1 になるといわれている

これらの薬には、別紙のようにいろいろな注意と副作用があります

これらの薬は 4 週間飲み続ける必要があります

専門病院である広島大学医学部附属病院、県立広島病院、広島市民病院のい

ずれかにはこちらで相談して、受診方法などは聞いておくことを伝える

説明はわかりましたか？言いたいこと、聞きたいことはありませんか？共感

的態度で傾聴する

次の面接日時の指定 ( 1 ~ 2 日以内 )

いつでもどんな些細なことでも相談してもらってかまわないこと、すぐに分

からないことは責任を持って専門医に問い合わせることを伝える

## 針刺し事故にて患者血液で HIV ( + ) が判明した時

・・・患者への説明

\* 看護婦に同席してもらい必ず個室で行う

**この用紙は説明用マニュアルで、本人に渡すものではありません**

簡易テストで HIV ( + ) であったこと

今後の検査および治療については、保険診療の扱いになる

簡易テストなので、精密検査には提出する

HIV ( + ) の意味すること。いわゆるエイズではなく、また = 死ではないこと  
HIV ( + ) は予想していましたか？どのような気持ちですか？共感的態度でひたすら傾聴する

HIV というウイルスが体内にいることを示しており、このウイルスが体内に入ってからいわゆるエイズという状態になるまでに 10 年くらいかかるといわれている

医学の進歩により、ウイルスが体内に入っても、エイズの状態になるまでの期間を引き延ばすことができる。また、エイズの状態にあっても様々な治療が行われている

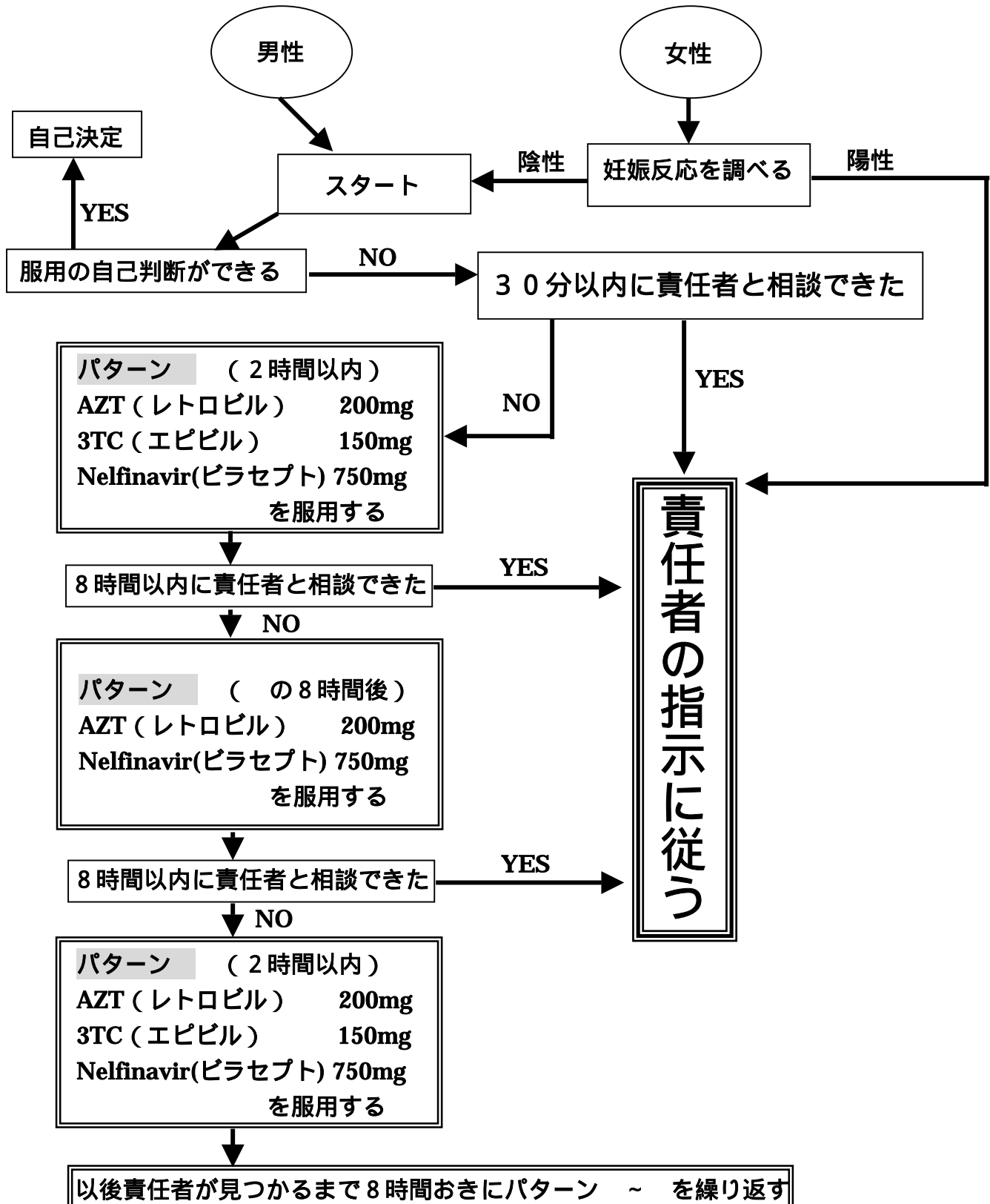
今しなくてはならないことは、患者がどの段階にいるのかをきちんと捕らえ、今の状態にあった治療を選択すること

このために、まず専門病院を受診することが必要

もちろん、われわれもできるだけ事はするつもりでいるので何でも相談してもらいたい

こちらの話は以上だが、何か話したいこと、わからないことがありますか？  
いつでも声をかけてください

針刺し事故フローチャート（HIV の場合）



HIV 汚染針刺し事故における予防的服用に関するマニュアル抗 HIV 薬の予防的服用開始に関する同意書

今回、私は同マニュアル内説明書により、HIV 汚染血液暴露後の抗 HIV 薬服用によって感染を予防する利益と、薬剤副作用による不利益についての説明を受け十分に理解しました。

私は、自らの意志により、HIV 感染予防のための薬剤服用を希望し、同意署名します。

事故内容：

服用薬剤にチェック

AZT (レトロビル)

3TC (エピビル)

Nelfinavir (ピラセプト)

同意日            年            月            日

所属 \_\_\_\_\_

署名 \_\_\_\_\_ 印

HIV 汚染針刺し事故における予防的服用に関するマニュアル抗 HIV 薬の予防的服用拒否開始に関する承諾書

今回、私は同マニュアル内説明書により、HIV 汚染血液暴露後の抗 HIV 薬服用によって感染を予防する利益と、薬剤副作用による不利益についての説明を受け十分に理解しました。

私は、自らの意志により、HIV 感染予防のための薬剤を服用しないことを決定したので署名します。

同意日            年            月            日

所属 \_\_\_\_\_

署名 \_\_\_\_\_ 印

HIV 汚染針刺し事故における予防的服用に関するマニュアル薬剤服用および副作用説明書

副作用については頻度の比較的高い主要なもののみ記載しています。その他の詳細については各薬剤の添付説明書を参照してください。

なお、副作用および継続服用については、責任者と常に連絡とりながら慎重な経過観察を必要とします。身体に異常を感じた場合は、速やかに主治医（責任者）に相談してください。

AZT（レトロビル）

効果：核酸系逆転写酵素阻害薬

剤形：白と青のストライプの入ったカプセル

服用方法：1回2カプセル、1日3回服用

副作用：嘔気、食欲低下、頭痛、倦怠感、血液障害、筋肉痛など

3TC（エピビル）

効果：核酸系逆転写酵素阻害薬

剤形：白色ひし形の錠剤

服用方法：1回1錠、1日2回服用

副作用：頭痛、倦怠感、下痢、嘔気、骨筋肉痛、鼻炎、ニューロパシー、血液障害など

Nelfinavir（ビラセプト）

効果：プロテアーゼ阻害薬

剤形：水色の楕円形の錠剤

服用方法：1回3錠、1日3回服用、食事摂取必要

副作用：発疹、下痢など

注意：（1）空腹時の内服では吸収が50%以下となってしまいます。

食事（脂肪を含むものが多い）中あるいは食直後での内服にして下さい

（2）当薬剤は、併用禁忌および注意すべき薬剤が多数あります。常用薬のある場合は、添付説明書で確認するか責任者と相談して下さい

## 患者さんが感染症採血を拒否した場合

### 責任医師の判断

\* HIV 感染のリスクが高いと判断した場合

被事故者との相談で抗 HIV 薬の 1 回目の服用？

何回か説得を繰り返す

\* HB 感染のリスクが高いと判断した場合

被事故者との相談で抗 HB グロブリンを注射

更に何回か患者さんを説得して検査の承諾を得る

## 患者さんはサインができず、家族と連絡不能の場合

### 責任医師の判断

\* HIV 感染のリスクが高いと判断した場合

被事故者との相談で抗 HIV 薬の 1 回目の服用？

連絡方法を再度確認

\* HB 感染のリスクが高いと判断した場合

被事故者との相談で抗 HB グロブリンを注射

連絡方法を再度確認

## 針刺し患者さんが特定できない場合

被事故者（職員）の採血を行い、HBs 抗原、HBs 抗体、HCV 抗体、HIV 抗体、GOT、GPT、LDH、ALP、 $\gamma$ -GTP、T-bil を検査する

2 ヶ月後に同じ内容の採血を行います。  
（HBV や HIV ウイルスの潜伏期を考慮して、確認のための検査です）

有病率と感染率の計算からは、下記のように HBV、HCV、HIV の感染の可能性は低いと考えられます。

HBV・・・約 0.8%    HCV・・・約 0.03%    HIV・・・約  $1.2 \times 10^{-5}\%$

国内外の文献やコンサルテーションから、感染源不明の針刺し事故の場合、HBV のみが問題とされています。

抗 HB グロブリンについては、HBV の感染は 90%防げますが、抗 Hb グロブリン自体が血液製剤であることから、アレルギーや未知の感染症への感染の問題もあり、どの報告でも接種を勧めていません。被事故者（職員）が強く希望した場合のみ個人の責任で行うこととする。

今後の感染予防のために、HB ワクチンの接種を行うことが勧められている。

針刺し事故後フローチャート

